

スーパーマーケット景気動向調査

2024年9月調査結果（8月実績）

（2024年9月20日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」

スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」

スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

9月調査（8月実績）結果概況

景況感 現状、見通し判断共に大幅改善

8月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から+6.4の51.6、見通し判断が前月から+4.5の47.2と共に大幅な改善をみせ、現状判断DIは5か月ぶりに判断の分かれ目である50を突破した。

経営動向調査では、売上高DI、収益DIは共に前月から二桁の上昇となり、プラス域を回復した。前年に比べ土曜日が1日多い曜日めぐりに加え、地震や台風に備える防災意識の高まりもあり、客単価DI、来客数DIともに大幅な上昇をみせた。全般的に相場高が続く生鮮品仕入原価DIも前月より小幅に上昇した。

カテゴリー動向調査では、DIが軒並み前月に比べ大幅な上昇となった。特に地震や台風に対する備蓄需要や、米不足報道による特需、猛暑の影響を受けた一般食品は、前月から+25.8と記録的な上昇となった。（最終ページに詳細掲載）

景況感調査は、特に現状判断で大幅な改善をみせ、景気判断、消費者購買意欲判断DIは50台を回復した。見通し判断も、景気判断、消費者購買意欲判断DIに改善傾向がみられた。（長期傾向はP11参照）

8月は、日向灘を震源とする地震による「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」の発表と神奈川県西部を震源とする地震が連続、お盆に台風7号、月末に台風10号が日本に接近、上陸するなど自然災害が多発、備蓄需要が急増。お盆休みと重なり飲料水の一時的な欠品も発生した。また米不足報道により欠品が長期にわたるなど、想定外の事態も発生した。今後も自然災害、気候変動の影響は一層強まるとみられ、商品調達や営業判断なども含めたBCPの策定、サプライチェーン全体の連携強化が求められるだろう。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：51.6 (+6.4) 前月：45.2	消費者購買意欲DI 当月：50.0 (+5.9) 前月：44.1	周辺地域 競合状況DI 当月：46.9 (+2.3) 前月：44.6	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：48.9 (+2.7) 前月：46.2
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：47.2 (+4.5) 前月：42.7	消費者購買意欲DI 当月：46.7 (+4.0) 前月：42.7	周辺地域 競合状況DI 当月：43.1 (+0.2) 前月：42.9	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：46.6 (+1.8) 前月：44.8
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：12.3 (+19.5) 前月：-7.2	客単価DI 当月：12.7 (+8.3) 前月：4.4	来客数DI 当月：3.0 (+12.7) 前月：-9.7	
収益DI 当月：6.5 (+14.7) 前月：-8.2	販売価格DI 当月：19.2 (+2.1) 前月：17.1	生鮮品仕入原価DI 当月：21.0 (+4.8) 前月：16.2	食品仕入原価DI 当月：19.6 (+2.7) 前月：16.9

カテゴリー動向

青果DI 当月：15.3 (+16.9) 前月：-1.6	水産DI 当月：6.5 (+12.0) 前月：-5.5	畜産DI 当月：1.6 (+15.4) 前月：-13.8	
惣菜DI 当月：12.9 (+8.4) 前月：4.5	日配DI 当月：-2.4 (+9.0) 前月：-11.4	一般食品DI 当月：22.1 (+25.8) 前月：-3.7	非食品DI 当月：1.7 (+12.3) 前月：-10.6

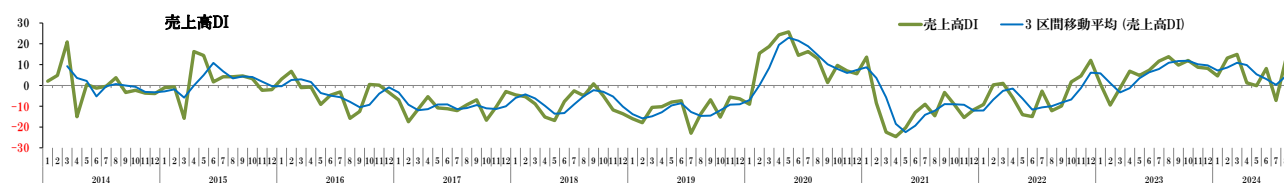
※DI値は前年同月との比較 / ()内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

前月から大幅に上昇、二桁プラス圏を記録

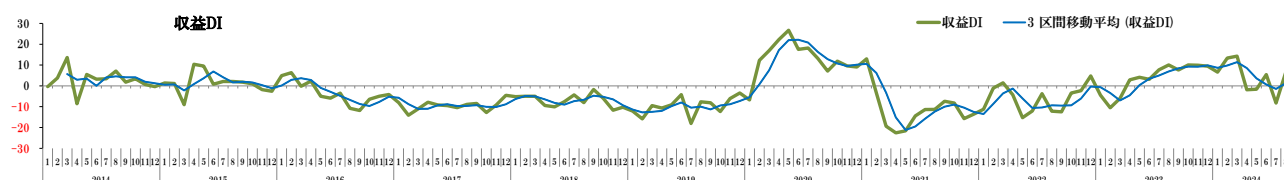
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	11.9	33.0	29.5	23.3	2.3	-7.2
売上高 (当月)	2.1	11.3	33.1	42.3	11.3	12.3



2. 収益DI

前月から大幅に上昇、プラス域に浮上

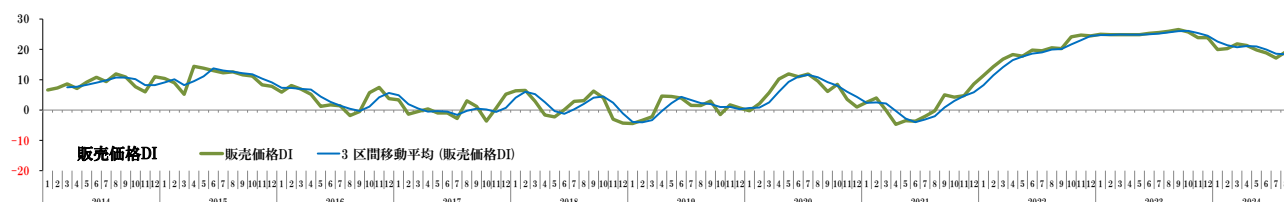
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	11.0	34.7	34.1	16.8	3.5	-8.2
収益 (当月)	5.1	17.4	33.3	34.8	9.4	6.5



3. 販売価格DI

前月から小幅に上昇、引き続き二桁プラスを維持

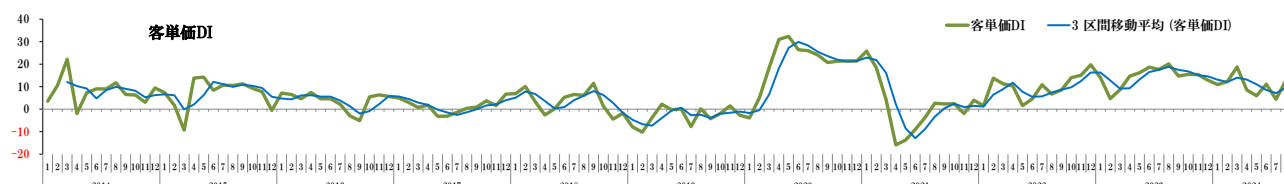
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	2.9	28.0	66.9	2.3	17.1
販売価格 (当月)	0.0	0.7	27.5	66.2	5.6	19.2



4. 客単価DI

前月から大幅に上昇、二桁プラス圏を記録

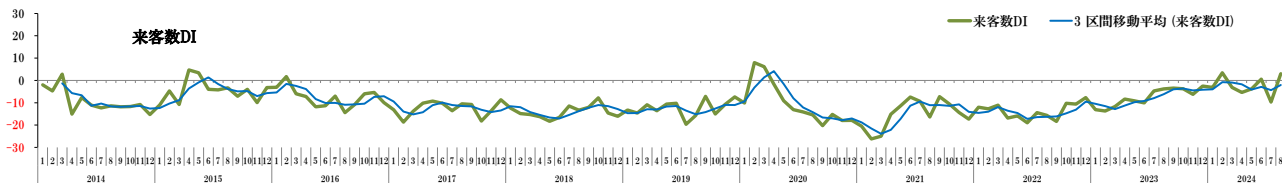
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	2.3	18.8	39.2	38.6	1.1	4.4
客単価 (当月)	0.0	9.2	35.2	51.4	4.2	12.7



5. 来客数 DI

前月から大幅に上昇、プラス域に浮上

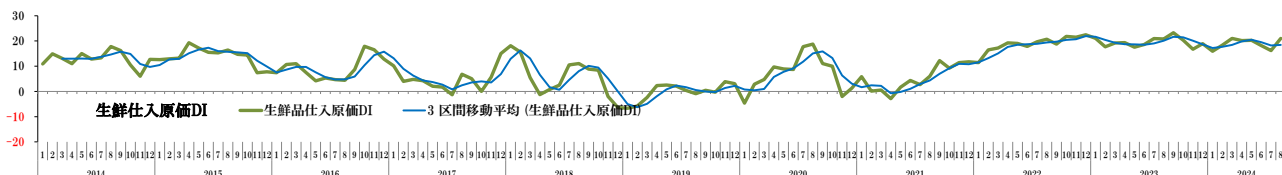
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	8.0	41.1	33.1	17.1	0.6	-9.7
来客数 (当月)	2.8	21.3	39.0	34.8	2.1	3.0



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から上昇、引き続き二桁プラス水準を維持

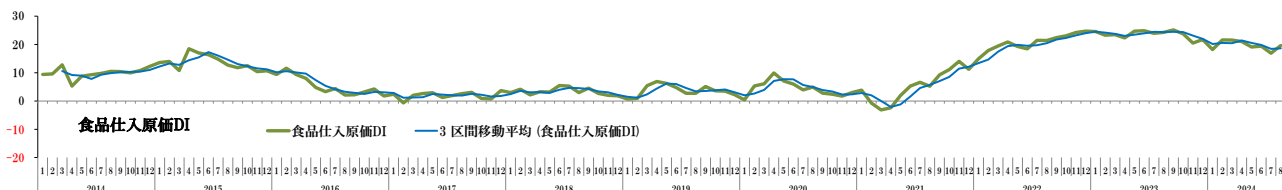
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	2.4	5.3	24.1	61.8	6.5	16.2
生鮮仕入原価 (当月)	0.0	2.9	21.9	63.5	11.7	21.0



7. 食品仕入原価 DI

前月から上昇、40 か月連続プラス圏

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.2	6.0	24.0	61.7	7.2	16.9
食品仕入原価 (当月)	2.2	3.7	20.0	61.5	12.6	19.6

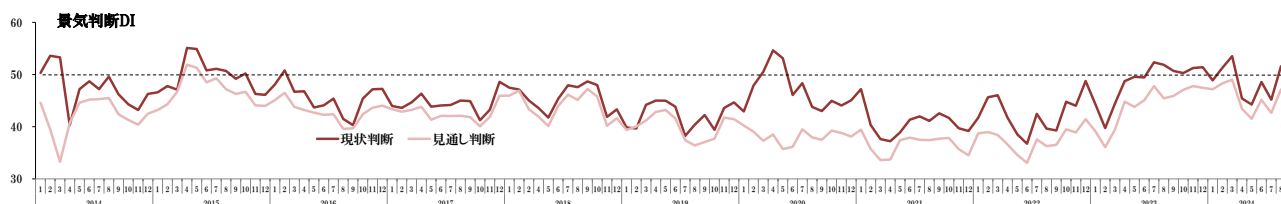


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断は大幅に改善し 50 超え、見通しも大幅改善

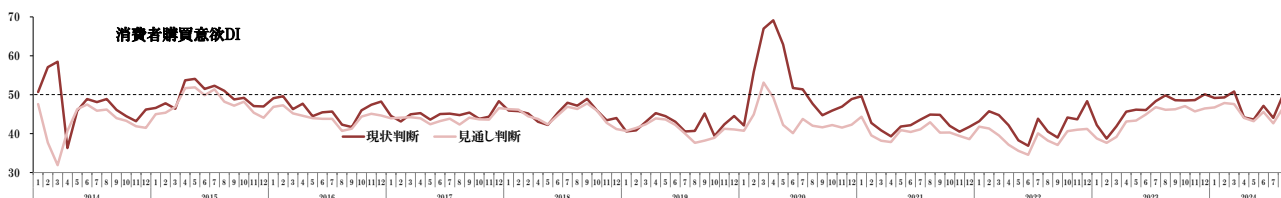
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	2.8	23.2	65.0	8.5	0.6	45.2
【現状】景況判断 (当月)	0.7	14.0	64.3	20.3	0.7	51.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	1.1	34.5	57.6	6.2	0.6	42.7
【見通し】景況判断 (当月)	2.1	20.6	64.5	12.1	0.7	47.2



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は大幅に改善し 50 に到達、見通しも大幅改善

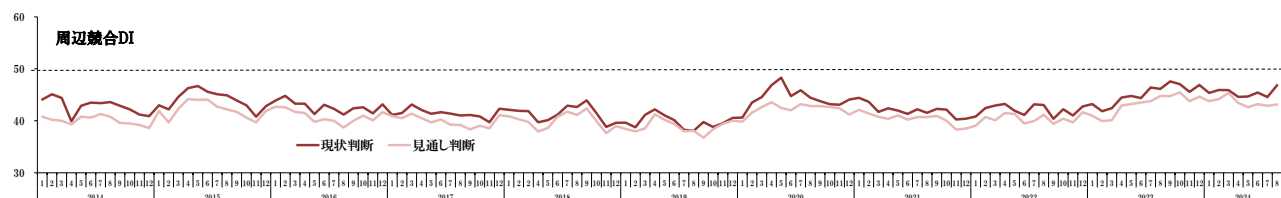
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.3	26.6	64.4	6.2	0.6	44.1
【現状】購買意欲 (当月)	0.7	16.1	66.4	16.1	0.7	50.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.0	35.6	58.8	5.1	0.6	42.7
【見通し】購買意欲 (当月)	0.7	22.5	66.9	9.2	0.7	46.7



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断は小幅改善、見通しは前月水準で推移

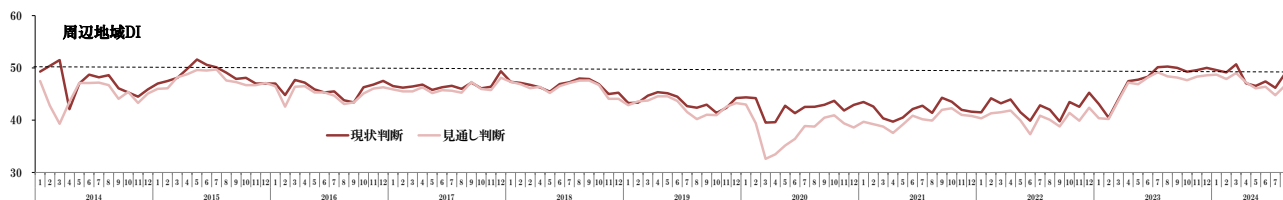
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	1.1	21.7	74.9	2.3	0.0	44.6
【現状】競合状況 (当月)	0.7	15.4	79.7	4.2	0.0	46.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	2.3	25.6	70.5	1.7	0.0	42.9
【見通し】競合状況 (当月)	2.8	23.2	72.5	1.4	0.0	43.1



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に改善

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	0.6	18.1	77.4	4.0	0.0	46.2
【現状】地域景気(当月)	0.0	12.0	80.3	7.7	0.0	48.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	0.0	24.3	72.3	3.4	0.0	44.8
【見通し】地域景気(当月)	0.0	19.1	75.2	5.7	0.0	46.6

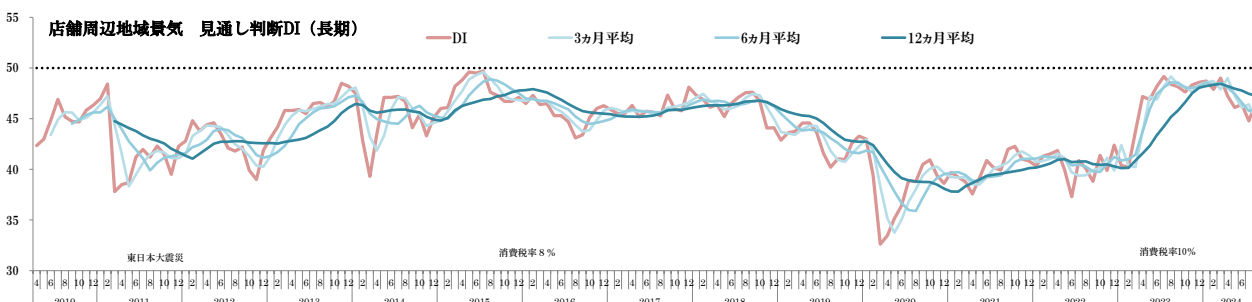
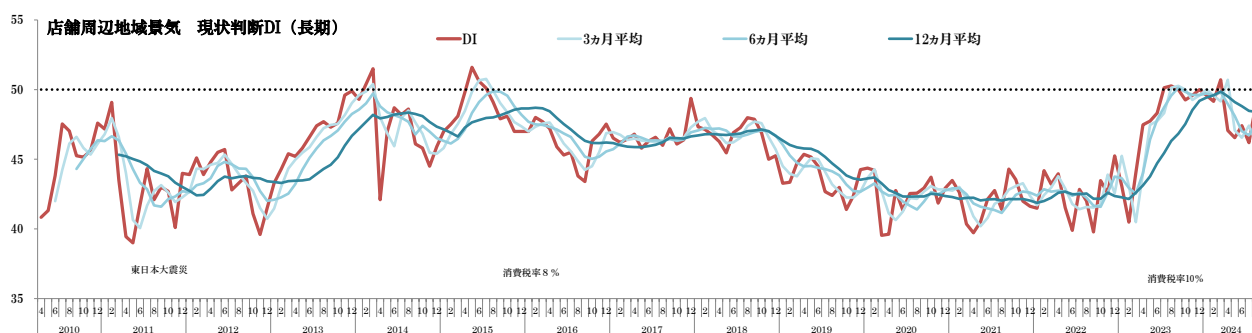


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月は現状判断DIが51.5を記録。14年4月の消費税率8%引き上げにより大幅に悪化するも徐々に持ち直し、2015年5月には現状判断DIは51.6に達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかし、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷。以後方向感の乏しい推移が続いたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下。20年2月に大幅に悪化した、その後持ち直しの動きが続いた。

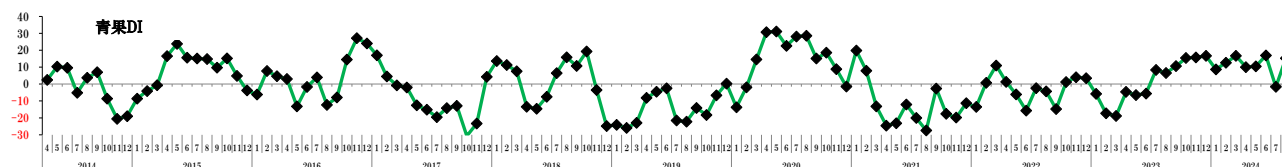
21年は、感染状況により上下に振られる動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化、感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。23年3月以降は改善が続き、7月には判断の分かれ目である50を突破、その後も高水準を維持したものの24年4月に一転して大きく悪化し、その後は方向感のない推移が続いている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：15.3（好調）

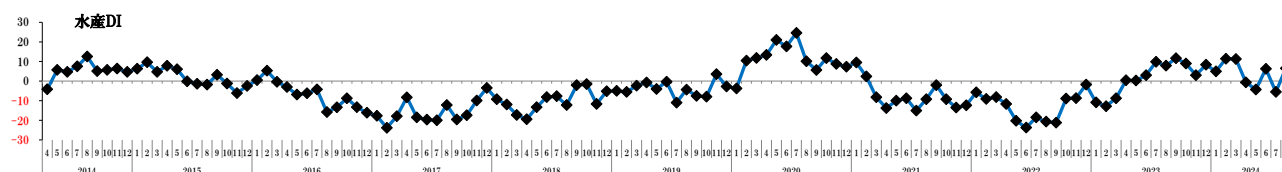
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	10.1	24.4	29.8	33.3	2.4	-1.6
青果（当月）	2.2	10.1	28.1	43.9	15.8	15.3



猛暑や天候不順により相場高の傾向で推移、一品単価が高水準のなか、買上点数が伸長した玉ねぎやジャガイモなどの土物、根菜類が特に好調となった。相場高により地場野菜の動きがよい。猛暑によりサラダ関連野菜のトマトやレタスが好調な一方で、キャベツやブロッコリーなどは苦戦した店舗が多い。果実は国産、輸入共に相場高の傾向が続くなか、スイカや桃、カットフルーツが好調だが、メロンや梨はやや伸び悩んだ店舗が多い。バナナは比較的好調となった。お盆時期の花きは好調とするコメントが多い。

2. 水産DI：6.5（やや好調）

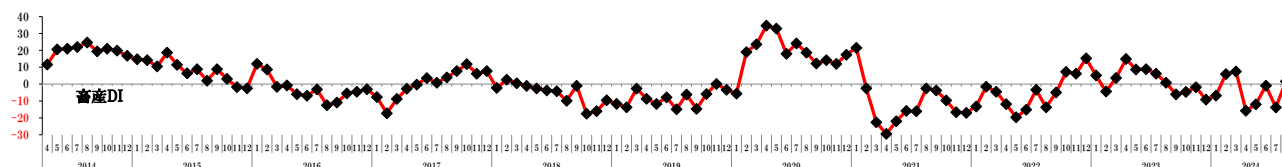
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	9.6	31.1	34.1	22.2	3.0	-5.5
水産（当月）	3.6	19.6	33.3	34.1	9.4	6.5



お盆時期は台風の影響を受けた地域もあったものの、全体的には刺身類や塩干類が好調。今年は土用二の丑があり、ウナギも好調だった。例年よりサンマの入荷が早かったことも販売に貢献した。鮮魚は価格が安定しているマグロやカツオ、サーモンなどの魚種を中心に好調。塩干は、しらすなどのちりめん類に回復がみられた。一方でカニやエビなどの冷凍水産品は価格高騰で苦戦。下旬は台風の影響で入荷量が減少し、商品確保に苦戦した店舗もみられた。

3. 畜産DI：1.6（やや好調）

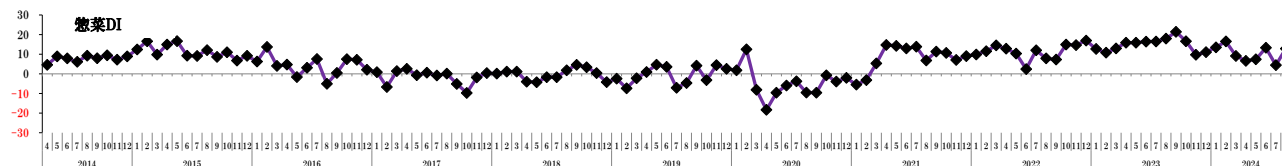
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	13.7	44.6	27.4	11.9	2.4	-13.8
畜産（当月）	7.2	23.7	30.2	33.1	5.8	1.6



国産・輸入ともに相場高傾向が続き、仕入値が過去最高を記録したという店舗も。夏休み、お盆時期であり牛肉の販売数量がやや回復傾向となった。豚肉の価格が再び上昇しており、不調となった店舗が多い。比較的値ごろ感のある鶏肉への需要シフト傾向は続いており、ひき肉や小間切れなどの低価格商品もよく動いたとのコメントが多い。加工肉は全般的に高値傾向にあり、苦戦が続いている。台風で備えた備蓄需要が発生したという地域もみられた。

4. 惣菜DI：12.9（好調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	6.5	16.7	35.7	34.5	6.5	4.5
惣菜（当月）	2.9	8.1	34.6	43.4	11.0	12.9

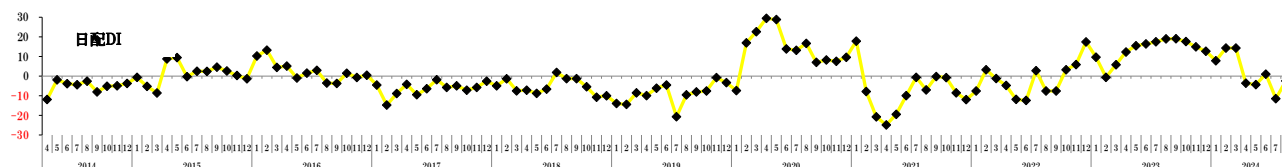


猛暑の影響で、特に涼味系の冷やし麺類や、夏を意識した惣菜類、サラダ類が好調に推移した。自宅での調理を敬遠する傾向により、天ぷらなどの揚げ物類が引き続き好調となった。米不足報道の影響で、おにぎりや米飯類が好調となったという店舗も。旅行や帰省を中止した人が多く都市部店舗での需要も高かった。

お盆時期のオードブルは、今年は少量サイズの動きがよいとのコメントがみられた。夏祭りや花火大会関連の販売が好調な店舗も多い。土用の二の丑は、国産は価格上昇で苦戦傾向。寿司は猛暑で持ち帰り敬遠も。

5. 日配DI：-2.4（やや不調）

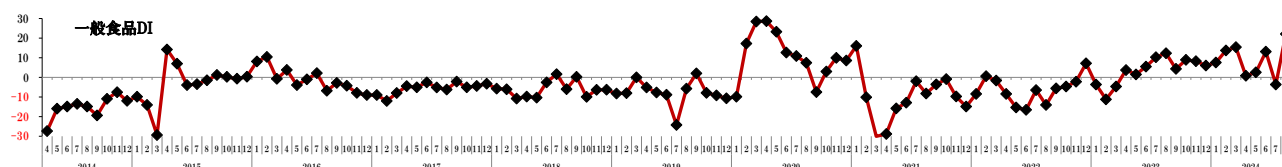
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	10.8	39.8	35.5	12.0	1.8	-11.4
日配（当月）	8.9	22.2	43.0	21.5	4.4	-2.4



全般的に猛暑によりアイス・氷菓、飲料、涼味麺など夏物商材の販売が好調で、豆腐の動きもよいとのコメントが多かった。米不足報道の影響を受けてか、パン類や麺類の動きがよい。伸びが鈍化していた牛乳・乳製品にも回復傾向がみられた。冷凍食品は引き続き好調。納豆や漬物など日配は点数減の影響が大きい。卵には、前年の相場高からの反動減がみられた。台風による備蓄需要が販売を底上げした店舗があった一方で、臨時休業などの影響を受け、売上減やロスが発生した店舗もみられた。

6. 一般食品：22.1（かなり好調）

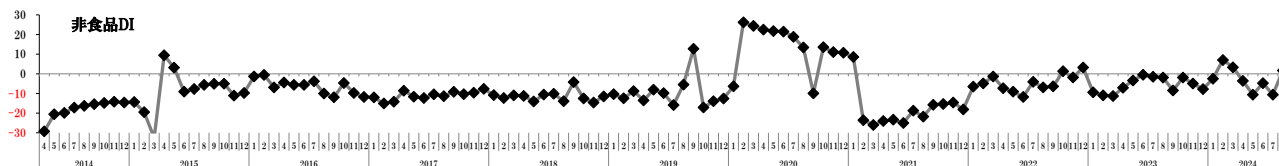
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	8.5	29.3	34.1	24.4	3.7	-3.7
一般食品（当月）	0.7	5.8	23.4	44.5	25.5	22.1



マスメディアによる米不足報道が影響し特需が発生、多くの店舗で欠品が続き、問い合わせや行列、クレームが発生した。レンジ米飯、レトルト米飯、餅などの関連商品にも影響が波及している。また、地震や台風への備えとして、防災関連商品として、水や缶詰類、レトルト食品、インスタント食品、シリアル類などの需要が高まり、ミネラルウォーターが一時的に欠品した店舗も多かった。猛暑の影響で飲料が好調、乾麺やめんつゆ、調味料の動きもよかった。一方で酒類はビール、ノンアルコールは好調も、それ以外は伸び悩んだ。

7. 非食品DI：1.7（やや好調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	13.7	33.5	35.4	16.1	1.2	-10.6
非食品（当月）	4.6	26.0	36.6	23.7	9.2	1.7



地震や台風への備えとして、乾電池やガスボンベ、紙製品などに幅広く特需がみられ、全般的に好調となった。猛暑により虫ケア用品や防虫剤、洗濯洗剤、入浴関連などの動きがよく、お盆の関連商品も比較的好調となった。ドラッグストアやホームセンターなどとの競合激化を指摘するコメントが多くみられた。

カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2024年9月調査（8月実績）キーワードTOP3

1. 防災意識の高まり、備蓄需要
2. 米不足報道による欠品の長期化
3. 相次ぐ台風の影響

（参考）2023年9月調査（8月実績）キーワードTOP3

1. 帰省客の増加によるお盆商戦好調
2. 猛暑による夏物・涼味商材、惣菜好調
3. 値上げによる単価増と点数減

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

8月実績速報版 143社
 7月実績確報版 177社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp